



海上保安庁
令和6年3月11日

富山湾の海底で斜面崩壊の痕跡を確認（第2報）

海上保安庁では、2月27日から28日にかけて、富山湾の海底地形調査を実施し、富山市沖の海底谷の斜面が広範囲にわたって崩壊していることを確認しました。

海上保安庁は、2月27日から28日にかけて、富山湾における地形変化の有無を確認するため、測量船「天洋」による海底地形調査を実施しました（図1）。

1月24日の広報では、富山市沖の海底谷の斜面が一部崩壊したことを報告しましたが、今回、より沿岸域を重点的に調査したところ、当該海底谷の斜面が広範囲にわたって崩壊していたことが分かりました。

具体的には、今回取得した水深データと平成22年（2010年）に北陸地方整備局伏木富山港湾事務所が取得した水深データを比較した結果、富山市沖の海底谷の斜面（水深約30～370m）が南北約3.5km、東西約1kmにわたって崩れ、最大40m程度深くなっていることが明らかになりました（図2）。

令和6年能登半島地震では、地震発生後の3分後に富山検潮所で津波が観測されており、富山湾の斜面崩壊が津波と関係した可能性が指摘されています（令和6年2月9日 地震調査委員会）。

本調査結果は、本日開催されている地震調査委員会に報告しています。

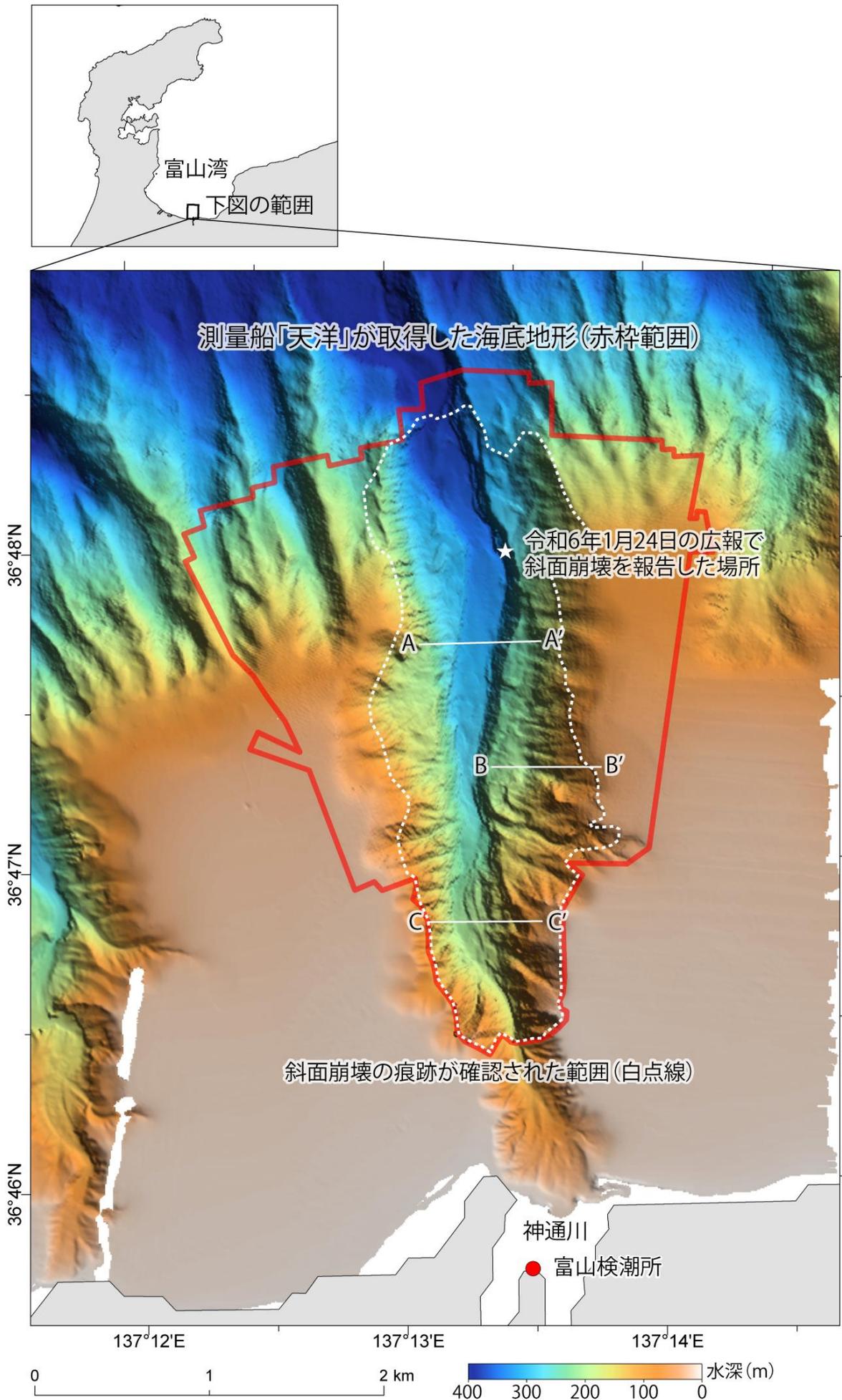


図1 富山湾の調査範囲

※本図は測量船「昭洋」、「天洋」、北陸地方整備局が取得した海底地形を重ねた図

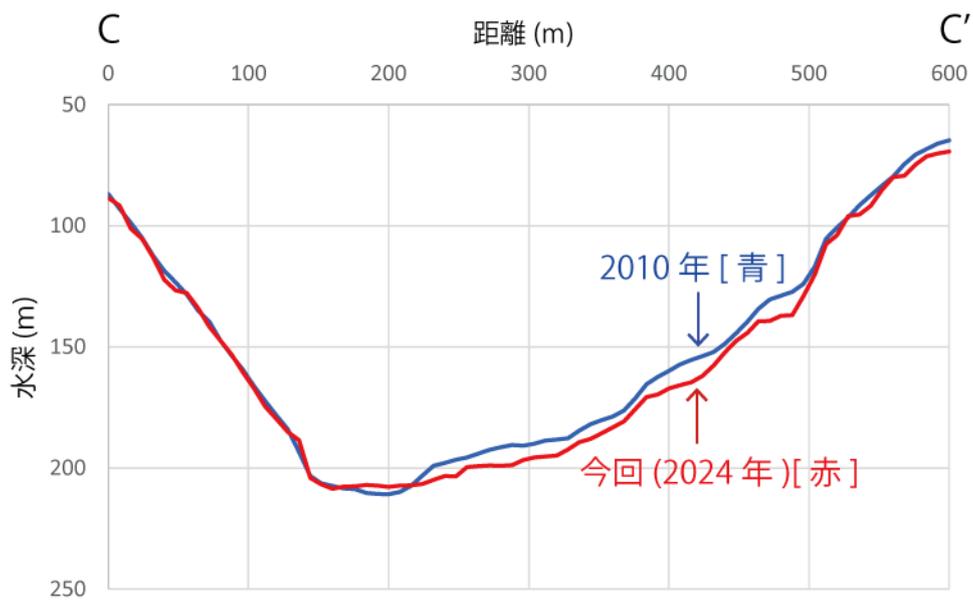
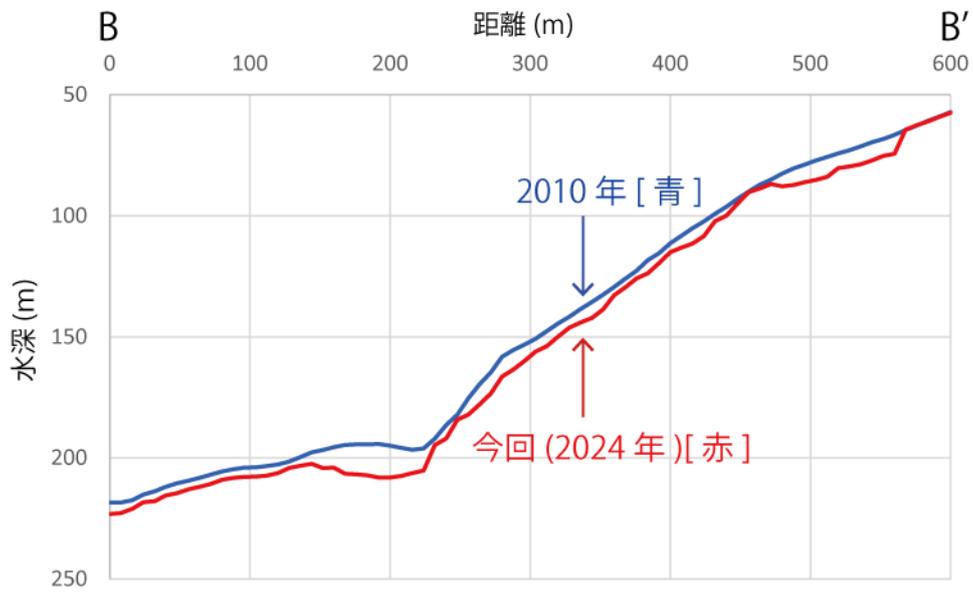
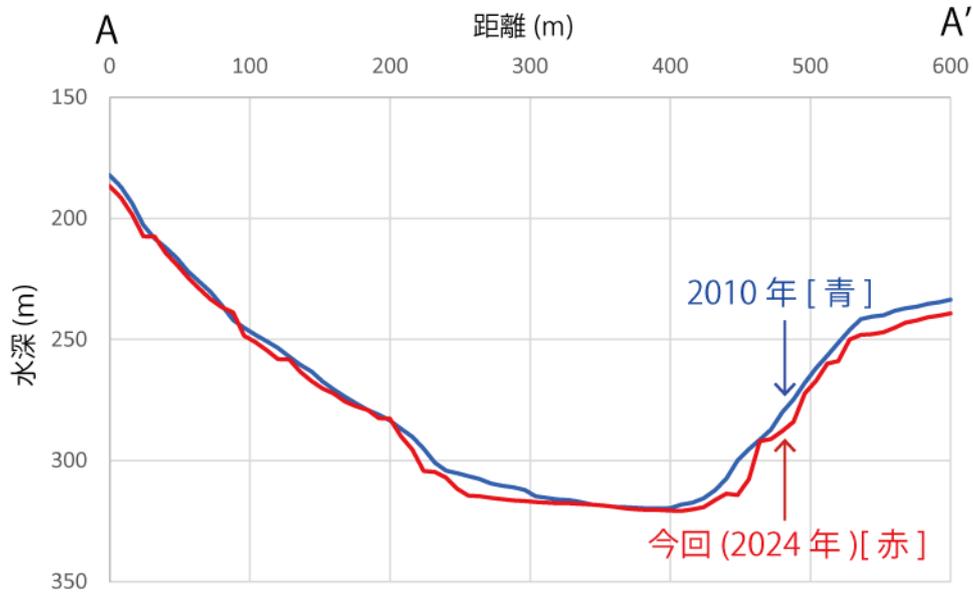


図2 2010年と今回(2024年)の海底地形の比較(断面図)

参考1 測量船「天洋」による海底地形調査について

海底地形調査は、測量船「天洋」に搭載しているマルチビーム測深機を使用して実施しました。マルチビーム測深機は、船底の送受波器から海底に向けて音波を扇形に発射し、反射した音波を受信することで、面的に海底地形を調べることができます。



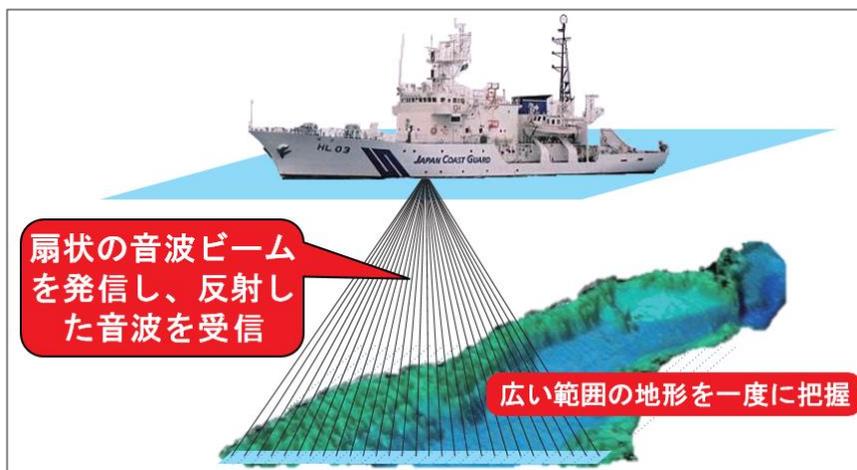
能登半島沖を調査中の測量船「天洋」
(2月26日 新潟航空基地撮影)

測量船 天洋

【船体要目】

就役年月	昭和61年11月
総トン数	430トン
全長	56.0メートル
幅	9.8メートル

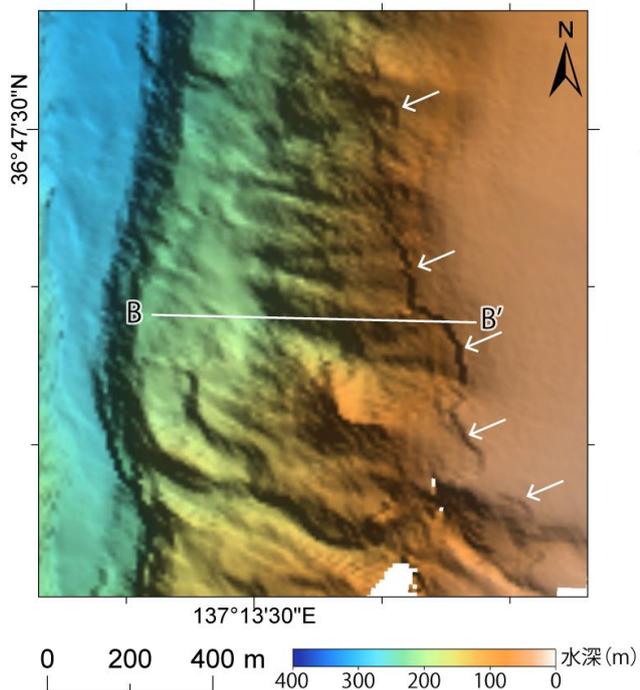
マルチビーム測深機について



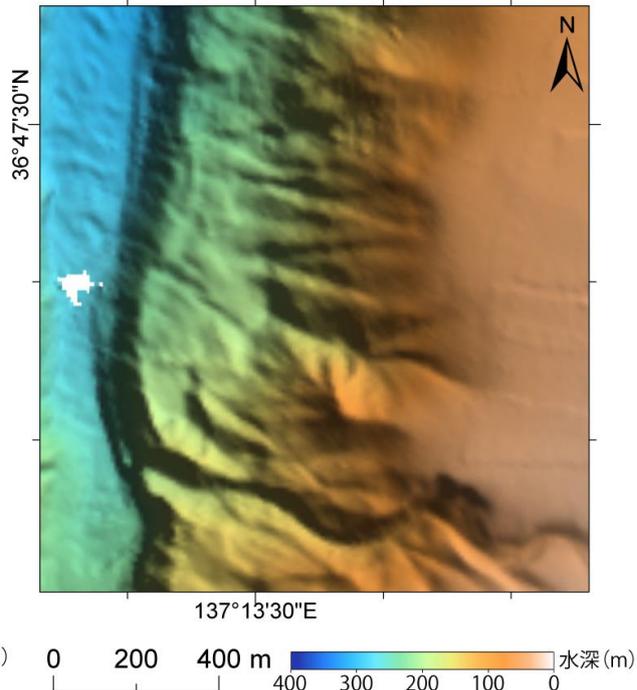
参考 2 崩壊した付近の海底地形の拡大図

左図の白矢印は顕著な斜面崩壊の場所を示す。

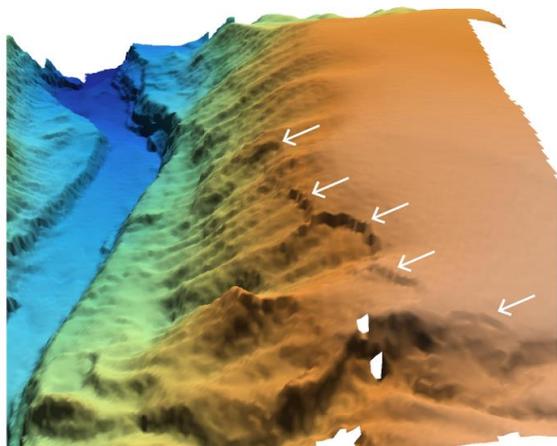
今回(2024年2月)の調査結果(平面図)



2010年の北陸地方整備局の調査結果(平面図)

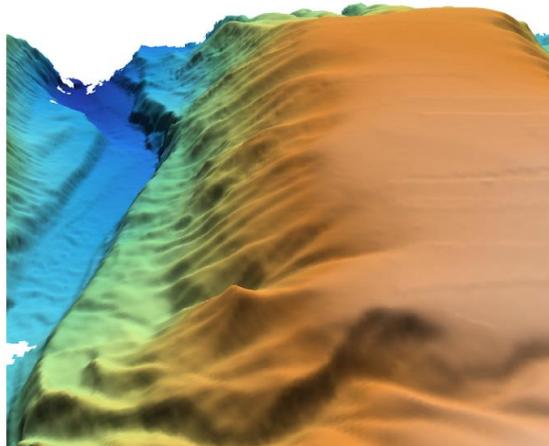


今回(2024年2月)の調査結果(鳥瞰図)



※南から俯瞰、鉛直方向を2倍に誇張

2010年の北陸地方整備局の調査結果(鳥瞰図)



※南から俯瞰、鉛直方向を2倍に誇張

参考 3 令和 6 年能登半島地震関連広報

- ・ 令和 6 年 1 月 24 日 「富山湾の海底で斜面崩壊の痕跡を確認」
- ・ 令和 6 年 2 月 8 日 「能登半島沖の海底で約 3 メートルの隆起を確認」
- ・ 令和 6 年 2 月 22 日 「能登半島東方沖の海底で大規模な斜面崩壊の痕跡を確認」